

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援室みらい 城南教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2025年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2025年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	見通しを持った主体的な行動を促すプログラム構成	日々のスケジュールや活動計画を事前に共有し、次段階の予測を可能にすることで、自主的な行動力を養っている。1週間単位の継続的な集団活動により、一貫した経験を積み、成長を可視化しやすい環境を整えている。また、スモールステップの達成を称賛し、次なる活動への意欲(自己効力感)を高めている。	自己決定の機会を拡充し、責任感と主体性を育む活動を積極的に導入する。保護者との連携を深化させ、家庭でも一貫したサポートプランを実践できる体制を構築する。また、定期的なフィードバックにより、利用者が自らの成長を振り返る機会を強化する。
2	刺激を最小限に抑制した療育環境の整備	パーティションの活用等により個別の空間を確保し、視覚的な干渉を排除して集中力を向上させている。掲示物を最小限に留めることで情報の混乱を防ぎ、視覚支援(イラストや指示カード)を用いることで具体的な行動の理解を促していく。これにより、不要な声掛けを減らし、利用者の集中を持続させる工夫をしている。	空間デザインのシンプルさを維持し、過剰な装飾を排した環境づくりを継続する。整理整頓を徹底し、利用者自身が片付けの習慣を身につけられるよう支援する。また、指示カードは利用者の発達段階やニーズに応じて、適宜見直しと更新を行う。
3	社会性・協調性を育む外部交流と運動プログラム	他事業所との合同運動やレクリエーションを通じ、新しい対人関係の構築や多様な価値観に触れる機会を設けている。チーム活動での協力や助け合いの実践、運動によるリフレッシュとストレス発散を促進し、心身の健康と社会性の向上を同時に図っている。	交流アクティビティをさらに多様化し、学びの選択肢を広げる。活動後に感情や学びを共有する時間を設け、経験を内省して次に活かすプロセス(フィードバック)を定着させる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	空間的制約とレイアウトの工夫	限られたスペースで安全な動線を確保するために仕器の配置変更(に時間を要し、業務効率や大規模な活動の展開に制約が生じている。	スペースの多目的活用を検討し、収納の工夫により有効面積を最大化する。また、近隣の公園や体育館などの外部施設を積極的に活用し、活動内容に応じた柔軟な環境確保に努める。
2	高い利用ニーズへの対応と待機児童の解消	利用満足度が高く退会者が少ない一方で、新規に支援を必要とする児童への速やかなサービス提供が困難な状況にある。	早期療育の重要性に関する周知活動を強化し、低年齢層からの支援体制を整える。「個性を活かし、笑顔あふれる社会の実現」を目指し、一人ひとりが自己肯定感を高められる質の高い支援を継続する。
3	地域社会との連携深化	地域の子ども向け事業や活動との接点が不足しており、コミュニティ内での交流機会が限られている。	地域の児童対象事業とのネットワークを構築し、定期的な交流や情報交換の場を設けることで、利用者が地域社会の中で共に育つ機会を創出する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子ども支援室みらい 城南教室

公表日 2026年 3月 27日

利用児童数 2026年 3月 6日 回収数 16

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	
						ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	2		1	十分広く良いと思います。	今後もお子様の動線や安全に配慮した室内レイアウトの工夫を続け、のびのびと活動できる環境を維持します。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15			1	十分だと思います。	適切な配置への信頼に応え、引き続き手厚い支援体制を維持するとともに、職員一人ひとりの専門性向上に向けた研修を強化し、支援の質をさらに高めてまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14			2	問題ないと思います。	お子様が自ら「次に何をすべきか」を理解できる視覚的支援や構造化を継続し、障害特性に合わせた安全で過ごしやすい環境づくりを徹底します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16				大丈夫だと思います。	「清潔で明るい」との評価を励みに、毎日の清掃・消毒を徹底し、お子様が心身ともにリラックスして活動に集中できる衛生的な空間を保持します。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	1			一人一人の特性等理解されていると思う。	個々の特性を深く理解しているとの評価を大切に、アセスメントを日々更新しながら、一人ひとりの成長段階に合わせた専門的アプローチを追求し続けます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1			合っていると思います。	公表しているプログラム内容と実際の支援が高い精度で一致するよう、定期的に提供内容の点検を行い、常に透明性の高い療育を提供します。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16				しっかりと計画を立てられていると思います。	保護者様のニーズとお子様の課題を多角的に分析し、納得感の高い個別支援計画を作成します。今後も具体的な目標設定と進捗管理を徹底してまいります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16				設定、立てられていると思います。	「本人・家族・移行」の3つの支援軸に基づいた適切な項目設定を継続し、お子様の将来を見据えた包括的な支援プログラムを構成・実施します。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16				問題なく支援が行われている。	作成した個別支援計画を全職員で共有し、日々の活動が目標達成に直結するよう、一貫性のある療育を確実に遂行いたします。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16				いろいろなプログラムを考えてあり、楽しんでいる。	「いろいろなプログラムを楽しみ、固定化されていない」との評価を糧に、今後も季節感やトレンド、お子様の興味関心を取り入れたプログラムを企画し続けます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10	2	3	1	別の教室の方との空手や運動にも参加し楽しんでいます。	今後は他の教室との交流（空手・運動等）に加え、地域の公共施設やイベントへの参加機会をもち、社会性の広がりをより実感いただけるよう努めます。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16				十分な説明で安心しております。	契約時の丁寧な説明への信頼を維持し、規程や負担金について変更が生じた際も、迅速かつ分かりやすい説明を心がけ、安心感を提供し続けます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16				十分な説明で安心しております。	計画の内容を分かりやすく提示し、保護者様と目標を共有できるような努めます。今後も合意形成を大切に、共に歩む支援を目指します。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16				子どもと一緒に運動などの参加や研修の案内があり参加できればしたい。	運動参加や研修への参加意向を尊重し、今後も保護者様が気軽に参加でき、家庭での療育に役立つ実践的な情報提供や交流の場を定期的開催します。

保護者への説明等	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達について共通理解ができていると思いますか。	16				送迎の際やLINEなどにその日の様子と報告があり助かります。	送迎時の対話やLINEでの動画・写真付き報告をさらに充実させ、お子様の「できた！」という瞬間をリアルタイムで共有できる体制を継続します。
	16	定期的な、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16					定期面談の実施を徹底し、日々の悩みから将来の不安まで、専門的知見に基づいた具体的なアドバイスを行える相談パートナーとしてあり続けます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	2				職員の受容的な関わりを大切にします。より一層お子様と保護者様の心に寄り添った温かい対応を徹底します
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	1		3	しっかり考えられており今度みまで参加したいと思っています。	交流機会への参加希望に合わせ、ご家族全員が楽しめるイベントを企画します。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16				早急に対応して頂いております。	迅速な対応を維持し、些細なことでも相談しやすい「心理的安全性」の高い窓口であることを周知徹底し、誠実な対応を継続します。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16				対応が早く助かっております。	迅速なレスポンスへの評価を継続し、保護者様とのコミュニケーション手段の最適化を図りながら、漏れのない確実な情報共有を行います。
	21	定期的な通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15			1	されていると思います。	HP等を通じた発信に加え、今回の自己評価結果も真摯に公表し、事業所の透明性と健全な運営姿勢を広くお伝えしてまいります。
非常時等の対応	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					お子様とご家族の個人情報を厳重に管理し、職員への情報セキュリティ教育を定期的実施することで、信頼を損なわないよう細心の注意を払います。
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16					各種マニュアルを常に最新の状態に更新し、保護者様への周知を徹底します。有事の際にはお子様の命を守るための準備を怠りません。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16				訓練の様子などの写真や報告があります。	写真や報告による可視化を継続し、お子様がバニックにならず安全に避難できるよう、遊びの要素を取り入れつつも実践的な訓練を定期開催します。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16					支援のあらゆる場面において安全確保を最優先し、ヒヤリハット事例の共有・分析を通じて、事故を未然に防ぐ体制を堅持します。
26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15			1		万が一の事態には事実を即座に報告し、原因と再発防止策を誠実に説明します。常に「迅速・正確・誠実」な連絡体制を維持します。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15	1			すべてにおいて大変満足しており、忙しいイベントや買い物訓練など計画を立てていただきありがとうございます。言うことありません！	イベントや買い物訓練等の充実を評価いただき感謝いたします。今後も「居場所」としての安心感を基盤に、お子様の挑戦を支える環境を維持します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14	2				「通所を楽しみにしている」と感じていただけるよう、魅力的なプログラムを考案し、お子様が自発的に「行きたい！」と思える事業所づくりを追求します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16					今後も期待を超える支援を提供できるよう、職員一丸となって精進してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子ども支援室みらい 城南教室				公表日	2026年 3月 27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7					
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1		構造化はされているが、車椅子での利用には対応していません。ソフト面とハード面の両方から段階的にバリアフリー化を推進します。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7					
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7					
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7					
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6		検討し、より信頼性の高い事業所運営へと繋がります。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7					
適切な	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7					
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7					
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7					
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7					
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7					
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7					
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7					

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7					
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7					
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7					
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7					
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7					
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7					
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7					
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1			日々の活動や自由時間において、複数の選択肢（写真や絵カード等）から子どもが自ら選べる仕組みを導入します。職員への研修を通じて、「代行」ではなく「支援」による自己決定の機会を意図的に創出します。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7					
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1			主治医や学校、相談支援事業所との連絡ルートを再点検し、定期的な情報共有の場を設けます。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7					
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7					
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7					
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7					
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7				施設内に留まらない活動を通じて、お子様が社会の多様な人々と触れ合う機会を創出し、地域社会全体で育ちを支えるインクルージョンの取り組みを推進します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7					
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7					
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7						
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7					
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7					

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1		保護者の状況やニーズに合わせ、視覚的に分かりやすい資料提示など、情報伝達手段を多角化します。個別面談の機会を増やし、双方向の意思疎通を強化します。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6		地域住民に事業所の活動を正しく理解してもらうことで、子どもたちが地域社会で自然に受け入れられる環境を整えます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				